

「民主的な学校とは」

去る 12 月 5 日(木)に蒲田小学校で「東京都教育委員会人権尊重教育推進校研究発表会」が行われ、私も参加してまいりました。その際、玉川大学TAPセンター准教授・川本 和孝先生のご講演が非常に示唆に富む興味深い内容でしたので、私なりに解釈してご紹介します。

最近の若者からよく聞く言葉、「無理」「意味ねえー」。しかし、「どんなことから、そこから意味を見いだせる人が成長する人」であることは間違いありません。若者の皆さんは、自分自身の限界を決めてあきらめたり、あらゆることの中にあるその意味を考えない人にはならないでほしいと私も思います。

また、「民主的」とはどういうことでしょうか。それは「自分たちのことは自分たちで決められる」「みんなのことは、みんなで話し合って決める」ということです。

本校の学校経営計画の「目指す学校像」は、「自信と笑顔があふれる学校」「生徒の声が聞こえる学校」です。具体的な方策としては、「生徒が考え、判断できる」「生徒(たち)が自分で決められる」教育活動を実践する、となっています。「自分たちが自分で決められる」ということは「民主的な学校」ということです。そのために「学校の主権は生徒にある」ということが、生徒も、教員も、保護者地域の方々にも、理解されていなければならないと思います。生徒たちは、特に3年生の生徒は、あと3年もすれば選挙権が与えられます。「自分の意見で社会が変わった経験がないと投票には行かない国民になってしまう」、という川本先生のお話に、私も大きく共感しました。自分の意見で社会(学校)が変わる経験、簡単に言えば自治的活動の場を、日常の学校生活や行事などで本校では多く設定しています。「無理」「意味ねえー」と最初から尻込みせず、いろいろな経験に自分から飛び込み、自分たちで社会(学級、学校、部活等)が変化する経験を中学校ではたくさんしてほしいと思います。

旅行のパッケージプランは、確かに行く方も、連れて行く方も楽です。パッケージプランなら道に迷わないので、最短距離と最短時間で目的地に到達する、アクシデントも少ないです。連れて行く方も、管理が楽です。これまでの多くの日本の学校教育は、言ってみればパッケージプランのような教育でした。

でも、これからは、旅行も学校生活も、共通の目的をみんなで考えるところから始め、その目標を達成する方法をみんなで話し合い、迷いながら進めていく、ということが求められています。それが充実した思い出に残る旅行であり、学校生活であると思います。「無駄」と思われるようなことから意味を見いだして、試行錯誤しながら、みんなでよりよい学校、社会を創っていく、そういう学校や社会にしていきたいと思います。

(文責 副校長 久住直子)